

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
応用物理	平成20年度	土田和明 田村陽次郎	3	通年	履修単位2	必

[ 授業のねらい ]

1、高校教科書を使い、1、2年生で学んだ基礎の上に波の性質と光の粒子性、原子モデルについて学ぶ。また、実験では物理学のいくつかのテーマを取り上げ、体験を通して自然界の法則を学ぶ。

[ 授業の内容 ] 前、後期とも、第1週～第15週の内容はすべて J A B E E「複合型生産システム工学」教育プログラム 学習・教育目標(B)<基礎>(c)および電気工学科学習・教育目標(B)<基礎>(c)そしてJABEE基準1(1)(c)に相当する。

前期 (土田)

第1週 実験ガイダンス(1)

第2週 実験ガイダンス(2)

第3週から第9週までは下記の7テーマの実験をグループ別に行う。

1.分光計: 精密な角度測定器の分光計を用いて、ガラスの屈折率を求める。

2.レーザー光による光の干渉: 光の重要な性質である干渉・回折現象をレーザー光により観察する。

3.気柱による音速測定: 音の定常波を作り基本音と倍音を理解する。

4.直線電流のまわりの磁界: 直流電流のまわりに出来る磁界の大きさを測定し、地磁気の水平分力を計算する。

5.磁力計による地磁気の水平分力の測定: 偏角磁力計、振動磁力計を用いて、地磁気の測定をする。

6.電子の比電荷(e/m)の測定: 電子の基本的定数をデモ用の装置を用いて測定する。

7.プランク定数の測定: 量子力学の基本定数をデモ用の装置を用いて測定する。

以下は、教科書「物理II」を使用する。

第10週 光の粒子性

第11週 光の粒子性

第12週 電子の波動性

第13週 原子モデル

第14週 原子モデル

第15週 原子核の構成

第16週 原子核と核エネルギー

ただし、第8週は、実験のため中間試験は、行わない。

後期

(田村)(以下、教科書「物理II」を使用する。)

第1週 波の伝わり方

第2週 波の伝わり方

第3週 波の重ね合わせ

第4週 波の重ね合わせ

第5週 波の干渉と回折

第6週 波の反射と屈折

第7週 音波

第8週 中間テスト

第9週 音波の性質

第10週 音源の振動

第11週 ドップラー効果

第12週 光の進み方

第13週 光の性質

第14週 レンズ

第15週 光の回折

第16週 光の干渉

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
応用物理	平成20年度	土田和明 田村陽次郎	3	通年	履修単位2	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>実験</p> <p>1. 実験を通して、基本的な機器の使い方が理解でき自分の力で実験を進める能力ができる。かつ実験内容の把握とその結果について分析し、レポートにまとめることができる。</p> <p>2. 分光計が理解できる。</p> <p>3. 音の定常波、基本音、倍音が理解できる。</p> <p>4. 電流により磁界が出来ることが理解できる。</p> <p>5. 磁気力が理解できる。</p> <p>6. 電子の磁界中の運動が理解できる。</p> <p>7. プランク定数が理解できる。</p> <p>講義</p> <p>8. 光の粒子性が理解できる。</p> <p>9. 量子力学の基礎が理解できる。</p> <p>10. 量子力学を用い原子の構造の基礎が理解できる</p>	<p>11. 波(音, 光)の表し方が理解できる。</p> <p>12. 波の反射, 屈折の説明ができる。</p> <p>13. 波の重ね合わせの原理が理解できる。</p> <p>14. 定常波の説明ができる。</p> <p>15. 固定端, 自由端反射が理解できる。</p> <p>16. 波の干渉, 回折が理解できる。</p> <p>17. ホイヘンスの原理が理解できる。</p> <p>18. ドップラー効果の説明ができる。</p> <p>19. レンズの像の簡単な作図ができる</p>
<p>[この授業の達成目標] 1, 2年生で学んだ基礎の上に波の性質と光の粒子性、原子モデルの基礎について理解し、問題を解くことが出来る。また、実験では物理学のいくつかのテーマを取り上げ、与えられた課題に関しては実験を遂行した上で適切にレポートをまとめることができる。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」各8~19を網羅した問題を2回の中間試験, 1回の定期試験で出題し、目標の達成度を評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とする。実験毎にレポートの提出を求める。各試験とレポートの評価結果が百点法で60点以上の場合に目標の達成とする。</p>
<p>[注意事項]</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 本校で課している数学、物理の1、2年生程度の基礎知識、及びレポート製作に必要な一般的国語の能力があればよい。</p>	
<p>[レポート等] 物理学は短期間で理解することは極めて難しい。日頃から自分で問題を解くなどの予習復習が重要である。表面的なものにとらわれず、根底にある普遍性を学ぶことも大切である。実験のレポートの他に必要に応じて出題し、レポートの提出を求めることがある。</p>	
<p>教科書：「高等学校物理 および 」(啓林館) [物理・応用物理実験](物理教室)、 問題集：「 センサー物理 + 」(啓林館)</p> <p>参考書：</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準] 講義に関しては、前期末・後期中間・学年末の3回の試験の平均点で評価する。ただし、60点を取得できない場合は、それを補うための再試験を学年末を除く2回の試験について行う。その場合の評価は、60点を上限として評価する。実験は、7つのテーマの合計が100点となるように評価する。講義の評価の平均点の75%と実験の評価の25%を加えた点を最終的な評価とする。</p> <p>[単位修得要件] 学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
デジタル回路	平成20年度	桑原 裕史	3	通年	履修単位2	必

[ 授業のねらい ]

デジタル技術が身の周りでどのように使用されているかを知り、さらに、その回路の読みとりや、デジタルICを応用した簡単な回路の設計製作ができる能力を身に付ける。

[ 授業の内容 ]

すべての内容は、学習・教育目標(B) <基礎>および<専門>に対応する。これはJABEE基準1(1)(d)(1)及び同1(1)(d)(2)aに相当する。

前期

- 第1週 デジタルとアナログの違い、数の表現法
- 第2週 デジタル回路表記法、単位、簡単な回路素子など
- 第3週 組み合わせ回路：MIL記号法
- 第4週 加法標準形設計法
- 第5週 回路の簡略化法について
- 第6週 カルノー図の利用
- 第7週 カルノー図の利用 続き
- 第8週 中間試験
- 第9週 デコーダ、エンコーダ、演算器について
- 第10週 デコーダ、エンコーダ、演算器の応用
- 第11週 順序回路概説
- 第12週 ラッチ、フリップフロップ基本回路の動作
- 第13週 順序回路とその利用方法
- 第14週 順序回路とその利用方法続き
- 第15週 順序回路とその利用方法続き
- 第16週 演習

後期

- 第1週 カウンタ、シフトレジスタの動作及び設計法
- 第2週 カウンタ、シフトレジスタの動作及び設計法続き
- 第3週 カウンタ、シフトレジスタの動作及び設計法続き
- 第4週 組み合わせ・順序回路を両方用いた実用的な回路
- 第5週 フリップフロッププログラミング概説
- 第6週 フリップフロッププログラミングを用いた設計法
- 第7週 フリップフロッププログラミング応用
- 第8週 中間試験
- 第9週 各種デジタルデバイス概要
- 第10週 TTL, CMOS各論
- 第11週 微分、積分回路とその応用
- 第12週 1発パルス発生器
- 第13週 1発パルス発生器の応用
- 第14週 デジタル回路用発振回路
- 第15週 シーケンス制御概論
- 第16週 演習

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
デジタル回路(つづき)	平成20年度	桑原 裕史	3	通年	履修単位2	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. デジタル的な情報表現の基礎を理解している。</li> <li>2. 加法標準形設計法による基本的な組み合わせ回路の設計ができること。</li> <li>3. カルノー図を利用して組み合わせ回路の簡略化ができること。</li> <li>4. デコーダ, エンコーダ, 演算器等の MSI を用いた回路の設計ができること。</li> <li>5. フリップフロップを使った基本順序回路の設計ができること。</li> <li>6. 非同期カウンタの設計ができること。</li> <li>7. 同期カウンタ, シフトレジスタを使った簡単な回路の設計ができること。</li> <li>8. 状態遷移図が理解できること。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>9. フリップフロッププログラミングを使って簡単な基本的な制御回路の設計ができること。</li> <li>10. デジタルデバイスの内部構造, 静特性, 動特性の基礎を理解すること。</li> <li>11. 微分回路, 積分回路のデジタル回路への応用を理解すること。</li> <li>12. パルス発生回路について基本的な回路の理解をすること。</li> <li>13. パルス発生用の IC を利用した基本的回路の設計ができること。</li> <li>14. シーケンス制御の基本を理解すること。</li> </ol>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>デジタル技術が身の周りでどのように使用されているかを知り, その回路の読みとりや, デジタル IC を応用した簡単な回路の設計製作ができる能力を身に付ける。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」1～14を網羅した問題を2回の中間試験, 2回の定期試験で出題するとともに, 1～14を網羅した課題によって目標の達成度を評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とする。総合評価が百点法で60点以上の場合に目標の達成とする。</p>
<p>[注意事項] 具体的な内容が多い。常に自分が回路を設計するのだという気持ちで授業に取り組んで欲しい。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 低学年で学んだ基礎情報工学・電気電子基礎が基本となっている。しかし, デジタル回路はIC化が進み, 市販の高性能なデバイスを組み合わせるだけでもかなり素晴らしいものができるので, 基礎教科が不得意な者であっても新たな気持ちで学ぶこともできる。</p>	
<p>[レポート等] 回路設計図などのレポート提出を求める。</p>	
<p>教科書: 「デジタル回路」天野英晴, 武藤佳恭共著(オーム社)</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>前期中間, 前期末, 後期中間, 学年末の4回の試験の平均点(90%), レポートの課題(10%)で評価する。試験成績不良者には再試験は行わない。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
オペレーティングシステム	平成20年度	箕浦 弘人	3	通年	履修単位 2	必

[ 授業のねらい ]

計算機システム, アルゴリズムとデータ構造, ソフトウェア構築法などさまざまな分野と関連が深いオペレーティングシステムの中で実現されている基本的な概念や技法について理解する.

[ 授業の内容 ]

全ての週の内容は, 学習教育目標 ( B ) < 専門 > , JABEE 基準 1(1)(d)(2)a に相当する.

前期

- 第 1 週 オペレーティングシステムとは
- 第 2 週 オペレーティングシステムの構成法
- 第 3 週 オペレーティングシステムの運用と管理
- 第 4 週 プロセスとスレッド
- 第 5 週 マルチプログラミングの概念
- 第 6 週 スケジューリングアルゴリズム ( 1 )
- 第 7 週 スケジューリングアルゴリズム ( 2 )

第 8 週 前期中間試験

- 第 9 週 並行プロセス
- 第 10 週 プロセスの同期と相互排除
- 第 11 週 プロセス間通信 ( 1 )
- 第 12 週 プロセス間通信 ( 2 )
- 第 13 週 デッドロック ( 1 )
- 第 14 週 デッドロック ( 2 )
- 第 15 週 演習
- 第 16 週 演習

後期

- 第 1 週 記憶管理技法の概要
- 第 2 週 記憶管理技法 ( 1 )
- 第 3 週 記憶管理技法 ( 2 )
- 第 4 週 仮想記憶の概要
- 第 5 週 ページング・セグメンテーション
- 第 6 週 仮想記憶の管理技法 ( 1 )
- 第 7 週 仮想記憶の管理技法 ( 2 )

第 8 週 後期中間試験

- 第 9 週 ファイルシステムの概要
- 第 10 週 ファイル構造とアクセス法
- 第 11 週 ファイル保護・ディレクトリ
- 第 12 週 二次記憶の割付け技法
- 第 13 週 割り込みの制御
- 第 14 週 入出力の制御
- 第 15 週 演習
- 第 16 週 演習

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
オペレーティングシステム(つづき)	平成20年度	箕浦 弘人	3	通年	履修単位2	必

<p>[ この授業で習得する「知識・能力」 ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オペレーティングシステムの構成法について説明できる.</li> <li>2. オペレーティングシステムの管理と運用について説明できる.</li> <li>3. プロセス・スレッドについて説明できる.</li> <li>4. マルチプログラミングについて説明できる.</li> <li>5. スケジューリングアルゴリズムについて説明できる.</li> <li>6. プロセスの同期と通信について説明できる.</li> <li>7. プロセス間通信について説明できる.</li> <li>8. デッドロックについて説明できる.</li> <li>9. 記憶管理技法について説明できる.</li> <li>10. 仮想記憶について説明できる.</li> <li>11. ファイルシステムについて説明できる.</li> <li>12. 割り込み・入出力の制御について説明できる.</li> <li>13. UNIX でオペレーティングシステムを操作できる.</li> </ol>	
<p>[ この授業の達成目標 ]</p> <p>オペレーティングシステムの基本的な概念や技法を理解し、オペレーティングシステムのサービスに関する専門知識を身につけ、説明できる.</p>	<p>[ 達成目標の評価方法と基準 ]</p> <p>上記の「知識・能力」1～13を網羅した問題を2回の間試験、2回の定期試験で出題し、目標の達成度を評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等である。評価結果が100点法で60点以上の場合に目標の達成とする。</p>
<p>[ 注意事項 ] 計算機の前に座る時間をできる限り確保し、コンピュータとUNIXオペレーティングシステムの環境に慣れ、そして使いこなせるようにしていただきたい。このような経験を積み重ねることによってはじめて、この分野をより深く理解できるようになる。</p>	
<p>[ あらかじめ要求される基礎知識の範囲 ] 計算機システムのハードウェアとソフトウェアに関する基礎的な知識が必要である。</p>	
<p>[ レポート等 ] 適宜、課題を与え、それに対するレポート提出を求める。</p>	
<p>教科書：「オペレーティングシステムの基礎」 大久保英嗣（サイエンス社）  参考書：「オペレーティングシステム」 清水謙多郎（岩波書店）等</p>	
<p>[ 学業成績の評価方法および評価基準 ] 前期中間・前期末・後期中間・学年末の4回の試験の平均点で評価する。ただし未提出レポート1報につき5点を最終評価から減点する。再試験は行わない。</p>	
<p>[ 単位修得要件 ] 学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
データ構造とアルゴリズム	平成20年度	田添 丈博	3	通年	履修単位2	必

[ 授業のねらい ]

これまでに開発されている，問題解決のための各種のアルゴリズムと，関連するデータ構造について理解すること．そして，プログラミング上の応用問題において，それらを活用できる能力を養うこと．

[ 授業の内容 ]

各週の内容は，電子情報工学科学習・教育目標(B) <基礎> の項目に相当する．これは JABEE 基準 1 (1) の(c)に相当する．

前期

第1週 アルゴリズムとは

第2週 計算量

第3週 演習

第4週 データ構造とは

第5週 リスト

第6週 スタック，キュー

第7週 演習

第8週 中間試験

第9週 木

第10週 2分木

第11週 演習

第12週 線形探索，2分探索

第13週 ハッシュ法

第14週 文字列の探索

第15週 木の探索

第16週 演習

後期

第1週 選択によるソート

第2週 交換によるソート

第3週 挿入によるソート

第4週 併合によるソート

第5週 演習

第6週 グラフの基礎

第7週 演習

第8週 中間試験

第9週 グラフの表現法

第10週 グラフの探索

第11週 グラフの応用

第12週 演習

第13週 ハノイの塔

第14週 8クイーン問題

第15週 ナップサック問題

第16週 演習

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
データ構造とアルゴリズム(つづき)	平成20年度	田添 丈博	3	通年	履修単位2	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>以下の各事項について理解し、問題を解くことができる。</p> <p>1. 基本的なデータ構造</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・配列, 構造体, ポインタ</li> <li>・スタック</li> <li>・キュー(待ち行列)</li> <li>・連結リスト, 木</li> <li>・再帰呼び出し</li> </ul> <p>2. 探索アルゴリズム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・線形探索</li> <li>・二分探索</li> <li>・木(とくに2分木)</li> <li>・二分探索木</li> <li>・平衡木, AVL木</li> <li>・多分木, B木</li> <li>・ハッシュ法</li> <li>・文字列の探索</li> </ul>	<p>3. 整列アルゴリズム, アルゴリズムの評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・選択によるソート</li> <li>・交換によるソート(バブル, クイック)</li> <li>・挿入によるソート</li> <li>・ヒープソート</li> <li>・併合によるソート</li> <li>・外部ソート</li> <li>・アルゴリズムと計算量</li> </ul> <p>4. グラフとアルゴリズム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフとその表現</li> <li>・グラフ上の探索</li> <li>・グラフに関する応用(最短経路, 最大流)</li> </ul> <p>5. アルゴリズムの設計</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分割統治法</li> <li>・動的計画法</li> <li>・近似解法</li> </ul> <p>6. 計算可能性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計算可能性と計算の複雑さ</li> </ul>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>基本的なデータ構造とアルゴリズムを理解し、プログラミングにおいて利用することができる。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」1～6を網羅した問題を2回の中間試験, 2回の定期試験で出題し, 目標の達成度を評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みの目安は1, 2, 3を各25%, 4, 5を各10%, 6を5%とする。問題のレベルは, 百分法により60点以上の得点を取得した場合に目標を達成したことが確認できるように設定する。</p>
<p>[注意事項] データ構造とアルゴリズムに関する理解は, 情報工学分野における最も重要な基盤の一つである。具体例で確認・理解すると同時に, 数学的な表現を理解できることも必要である。論理的・数学的な思考力を, さらに培っていくことが大切である。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 電子情報工学序論, プログラミング基礎, マイクロコンピュータ基礎, プログラム設計, オペレーティングシステムに関する基本的事項の理解が必要である。また, 数学の基本事項について理解していることも必要である。</p>	
<p>[レポート等] 授業中に小テスト(復習試験)を適宜行う。また, プログラミング課題に対するレポート提出を求める。さらに, それ以外に, 計算問題等に対するレポート提出を求めることがある。</p>	
<p>教科書: 「アルゴリズムとデータ構造」 湯田ほか著(コロナ社)</p> <p>参考書: 「データ構造とアルゴリズム」 斎藤ほか著(コロナ社), 「アルゴリズムの基礎」 五十嵐ほか著(コロナ社) など</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>前期中間・前期末・後期中間・学年末の4回の試験の平均点による評価を80%, プログラミング課題等に対するレポートの評価を20%として学業成績を評価する。再試験は実施しない。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>	



授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
電子機器学	平成20年度	斉藤正美	3	前期	履修単位1	必

[授業のねらい]

DCモータとインダクションモータの回転原理・特性と電子制御法,及びブラシレスDCモータやステッピングモータなど他の電磁モータの駆動原理と特性を理解し,併せてそれらを目的としたパワーエレクトロニクスの基礎を学ぶ。

[授業の内容] 第1週から第16週の内容は,学習・教育目標の(B) <専門>およびJABEE基準1(1)の(d)(2)a)に相当する。(電磁気学の基礎)

- 第1週 磁界,磁束密度,電磁誘導
- 第2週 電磁力,自己誘導,相互誘導  
(DCモータの回転特性と電子制御)
- 第3週, DCモータの回転原理,等価回路と基本式
- 第4週 DC他励モータ,分巻モータ等の速度・トルク特性
- 第5週 降圧チョッパとPWM制御
- 第6週 整流回路における電流波形と転流回路
- 第7週 サイリスタによる単相全波整流回路と位相制御
- 第8週 前期中間試験

(インダクションモータの回転特性と電子制御)

- 第9週 三相交流とその特性
- 第10週 三相交流による磁界の発生と回転,回転磁界の特性
- 第11週 インダクションモータの回転原理,等価回路,トルク特性
- 第12週 周波数制御/速度制御法-トランジスタインバータ
- 第13週 周波数制御/速度制御法-PWM制御法,多重インバータ
- 第14週 コンピュータを用いたインダクションモータの速度制御  
(その他の電磁モータ)
- 第15週 ブラシレスDCモータの回転原理とその特性
- 第16週 ステッピングモータの回転原理とその特性

[この授業で習得する[知識・能力]]

- 1.モータ制御に必要な電磁気学の基礎知識が理解できる。
- 2. DCモータの回転原理と特性及び速度制御のためのチョッパ回路とPWM回路が理解できる。
- 3. 整流回路とその電流特性およびフリーホイーリングダイオードの機能と役割が理解できる。
- 4. サイリスタによる位相制御法が理解できる。

- 5. 回転磁界の発生原理,回転磁界の特性,及びインダクションモータの回転原理と特性が理解できる。
- 6. 周波数制御によるインダクションモータの速度制御法,及び各種インバータ回路とPWM制御法が理解できる。
- 7. ブラシレスDCモータ,ステッピングモータとその回転特性が理解できる。

[この授業の達成目標]

DCモータ,インダクションモータ,ブラシレスDCモータ,ステッピングモータ等の回転原理と特性が理解でき,またその制御のためのパワーエレクトロニクスの基礎が理解できる。

[達成目標の評価方法と基準]

上記の「知識・能力」1~7を網羅した問題を前期中間試験と前期末試験で出題し,目標の達成度を評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とする。評価結果が百点法で60点以上の場合に目標の達成とみなす。

[注意事項]本授業で学ぶモータ制御のための電気・電子回路の中には他の電気電子回路等の授業内容と重複するものもあるが,具体的なモータ制御法を学ぶことを通して,それらの回路がどのように利用されるのか,またその場合どのような問題点がおこるのかなどをよく理解してほしい。授業では,必要な数学や電気電子工学の基礎知識の復習等を取り入れた分かりやすい授業(双方向授業)を心掛けるので,単に受け身ではなく,授業中に見る・聞く・理解する,を心掛け,積極的に授業に参加すること。

[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 電磁気学,電気電子回路,電子工学の初歩的な知識が必要である。また,微分積分学の初歩を理解しているものとして授業を進める

[レポート等] レポートの提出等はない。

教科書:「電気機器」 松井信行著 (森北出版株式会社)

参考書:「アクチュエータ入門」 雨宮好文・松井信行著(オーム社)

[学業成績の評価方法および評価基準] 前期中間と前期末試験の平均点で評価する。ただし,中間試験において60点を達成していない学生および希望者にはそれを補うための再試験を行う。再試験の成績が該当する試験の成績を上回った場合は60点を上限として再評価し,それぞれの試験の成績を再試験の成績で置き換えるものとする。前期末の再試験は行わない。

[単位修得要件] 学業成績で60点以上を取得すること。

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
電子工学	平成20年度	伊藤 明	3	通年	履修単位2	必

[ 授業のねらい ]

電子の振る舞いを取り扱う電子工学では、物理的に物事を捉え認識する能力が必要である。とりわけ位置エネルギー（ポテンシャルエネルギー）の概念は、繰り返し現れる考え方で比重に重要である。また、光のエネルギーなどの物理量が 粒子 のようにある一定量のかたまりとして振舞う量子力学的取り扱いが必要となり、これにより絶縁体・半導体・導体など固体材料の電気的特性やレーザ動作などが理解できるようになる。目に見えない電子などの物理現象を、幾つかの仮定と理論を用いて理解し、ダイオードやトランジスタをはじめ身の回りの電子デバイスの動作を理解する為に必要な基礎知識を学ぶ。

[ 授業の内容 ]

全ての週の内容は、学習・教育目標(B) < 専門 > およびJABEE 基準1(1)(d)(2)a に対応する。

前期（電子物性の基礎）

- 第1週 物質と電子・原子構造・原子の周期表と価電子。
- 第2週 電子の運動質量・エネルギーと質量の等価則。
- 第3週 量子力学の基礎・物理量の量子化と二重性・電子の波動性と光子の粒子性。
- 第4週 電子と電流・オームの法則の導出。
- 第5週 電子の運動エネルギー・エネルギーを表す単位の定義；電子ボルト(eV)とジュール。
- 第6週 量子力学的取り扱い。(量子条件と振動条件)
- 第7週 水素原子の第一イオン化エネルギーの導出・ボーア半径。
- 第8週 中間テスト  
(半導体工学の基礎)
- 第9週 原子相互作用による電子のエネルギー準位の変化。
- 第10週 エネルギーバンド図・電気伝導。
- 第11週 導体、絶縁体、半導体の分類・導電率による分類とエネルギーバンドによる分類。
- 第12週 半導体の結晶構造による分類・アモルファス、多結晶、単結晶・元素半導体；ダイヤモンド構造。
- 第13週 フェルミ準位とフェルミ分布関数・フェルミ準位の二つの定義；電子の存在確率 $1/2$  と最上位電子のエネルギー（化学ポテンシャル）。
- 第14週 キャリアの種類(電子と正孔)・真性半導体・真性キャリア密度。
- 第15週 n形半導体とp形半導体・アクセプタとドナー。
- 第16週 総合演習(エネルギーバンドとフェルミエネルギー)。

後期（半導体デバイスの基礎）

- 第1週 少数キャリアの注入と拡散・ライフタイムと拡散係数・アインシュタインの関係。
- 第2週 ホール効果・ホール電圧の導出・キャリアの移動度とキャリアのタイプの判別。
- 第3週 p n接合とその熱的平衡状態・電位障壁の形成・ポアソンの方程式・空乏層内の空間電荷密度、電界強度、電位。
- 第4週 p n接合の整流特性・印加バイアスによる多数キャリアと少数キャリアの流れと電位障壁高さの変化。
- 第5週 p n接合の降伏現象。(ツェナー降伏)。
- 第6週 p n接合の降伏現象。(電子なだれ降伏)。
- 第7週 p n接合の接合容量・可変容量ダイオードの原理。
- 第8週 中間テスト
- 第9週 少数キャリアの蓄積効果・ダイオード印加電圧のスイッチングによる過渡現象。
- 第10週 サイリスタの動作原理・ゲート電流による少数キャリア注入が引き起こす降伏現象の制御。
- 第11週 バイポーラトランジスタの動作原理・エミッタ、ベース、コレクタ端子の働き。
- 第12週 ベース接地、エミッタ接地の電流増幅率と電圧増幅率・キャリアの注入効率、輸送効率、入力インピーダンスと出力インピーダンス。
- 第13週 電界効果トランジスタの動作原理(接合型)・ピンチオフ状態。
- 第14週 電界効果トランジスタの動作原理(MOS型)・ゲート電圧による蓄積、空乏、反転状態の制御・しきい値電圧。
- 第15週 光電効果の原理と応用・光センサ、太陽電池。
- 第16週 総合演習(各種トランジスタの動作とエネルギーバンド)。

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
電子工学(つづき)	平成20年度	伊藤 明	3	通年	履修単位2	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>(電子物性の基礎)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>価電子の数によって物質の性質が特徴付けられることを説明できる。</li> <li>物質の速度が光速と同等になった時の変化が説明できる。</li> <li>量子力学における粒子性と波動性について説明できる。</li> <li>電子のエネルギー量であるエレクトロンボルトを用いた計算ができる。</li> <li>水素様モデルを用いて電子の真空準位への抽出について説明できる。</li> </ol> <p>(半導体工学の基礎)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>エネルギーバンド図について説明できる。</li> <li>導体、絶縁体、半導体の電気的特性の違いを説明できる。</li> <li>フェルミ分布関数とフェルミエネルギーについて説明ができる。</li> <li>半導体中のキャリアを用いて、電気伝導が説明できる。</li> <li>n形半導体とp形半導体について、エネルギーバンド図を用いて説明ができる。</li> </ol>	<p>(半導体デバイスの基礎)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>再結合と拡散について説明できる。</li> <li>ホール効果の原理とその応用が説明できる。</li> <li>p n接合のエネルギーバンド図について説明できる。</li> <li>p n接合の整流性について、エネルギーバンド図を用いて説明ができる。</li> <li>p n接合の二つの降伏現象について、エネルギーバンド図を用いて説明できる。</li> <li>p n接合を利用したダイオード、サイリスタなど半導体素子の動作を、エネルギーバンド図を用いて説明できる。</li> <li>ベース接地、エミッタ接地の電流増幅率を、エネルギーバンド図を用いて説明ができる。</li> <li>フォトダイオード、太陽電池の基本動作が説明できる。</li> </ol>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>電子回路において非常に重要なダイオードやトランジスタなどの半導体素子中の電子と正孔の基本的な振る舞いを理解し、その電氣的動作を説明できる。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」の各項目を含む問題を2回の中間試験、2回の定期試験および小テストとレポートで出題し、目標の達成度を評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とする。評価結果が百点法で60点以上の場合に目標の達成とする。</p>
<p>[注意事項] エネルギーバンド図の概念は非常に重要で、今後繰り返し用いるので必ず理解すること。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 物理で習った位置エネルギーの概念、化学で習った原子構造の基礎、数学で習った基礎的な微分・積分。</p>	
<p>[レポート等] 随時、講義内容の復習のためのレポート課題提出と確認のための小テストを行う。</p>	
<p>教科書：「新編電気工学講座 改訂 電子工学」西村信雄，落山謙三（コロナ社） 参考書：「半導体工学」高橋清（森北出版株式会社）</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>前期中間，前期末，後期中間，学年末の4回の試験の平均点を80%，小テストの結果を10%，課題(レポート)を10%で評価する。再試験は行わない。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
電気磁気学	平成20年度	井瀬 潔	3	通年	履修単位 2	必

[ 授業のねらい ]

電気磁気学は、電気・電子、情報・通信関連工学の基礎を培うための必須な専門科目であり、ここでは電磁界の基礎概念を把握し、電子情報分野に必要な基礎理論の理解と、専門基礎知識修得のための講義を行う。さらに具体的問題を解き、課題解決に必要な専門知識と技術の応用・展開能力を養う。また身近な電気磁気現象を念頭において、工学実験における基礎法則の理解を一層深める。本科目は第3、第4学年にわたっているため、授業計画は2学年を連結して実施する。

[ 授業の内容 ]

すべての内容は、学習・教育目標(B)<専門>および JABEE 基準 1(1)(d)(2)a) に対応する。

前期

第 1 週 授業の概要：電気磁気学の概略，位置づけ。

電荷に働く力

第 2 週 ク - ロンの法則：電荷の性質，電荷間の力。

第 3 週 ベクトルの基本：内積，位置ベクトル，力の合成。

静電界の性質

第 4 週 電界の概念，電気力線。

第 5 週 いろいろな静電界の問題演習。

第 6 週 ガウスの法則。

第 7 週 ガウスの法則の応用の問題演習。

第 8 週 前期中間試験。

第 9 週 渦なしの法則，保存力の条件。

第 10 週 静電ポテンシャル。

第 11 週 電位と電界の問題演習。

第 12 週 静電エネルギー。

第 13 週 電気双極子。

第 14 週 静電界の法則のまとめ。

第 15 週 静電エネルギー。

第 16 週 静電エネルギー，電気双極子モーメントの問題演習。

後期

電流と静磁界

第 1 週 磁界中の電流に働く力。

第 2 週 運動する荷電粒子にはたらく力（ローレンツの力）

第 3 週 直線電流のつくる磁界，ビオ・サバルの法則。

第 4 週 ビオ・サバルの法則の応用の演習。

第 5 週 アンペルの法則。

第 6 週 アンペルの法則の応用の問題演習。

第 7 週 静磁界に関する基本法則のまとめと演習。

第 8 週 後期中間試験。

電磁誘導の法則

第 9 週 ファラデーの法則。

第 10 週 ファラデーの法則の問題演習。

第 11 週 自己インダクタンス。

第 12 週 自己インダクタンスの問題演習

第 13 週 相互インダクタンス

第 14 週 相互インダクタンスの問題演習。

第 15 週 磁界のエネルギーと問題演習。

第 16 週 静電誘導の法則のまとめ。

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
電気磁気学(つづき)	平成20年度	井瀬 潔	3	通年	履修単位2	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>電磁気学についての数理に関する理論的理解と計算力</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 電磁気学に必要な数学の基礎学力(微分, 偏微分, 積分, 三角関数)に関する基本的な計算ができる.</li> <li>2. 基礎的なベクトルの理解とその基本演算(和, 差, 内積, 外積)およびベクトル解析(微分演算子, 勾配)の基礎理解と簡単な演算ができる.</li> <li>3. 積分(2重積分, 線積分を含む)に関する基礎理解と簡単な演算ができる.</li> </ol> <p>電磁気学についての物理原理に関する理論的理解と専門基礎学力・展開応用力</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. クーロン力および力の重ね合わせを理解し, 説明できる.</li> <li>5. 電荷のつくる電界およびガウスの法則を理解し, その簡単な説明, 計算ができる.</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>6. 電位, 静電ポテンシャル, 電位の勾配, 静電界エネルギーについて理解し, その簡単な説明, 計算ができる.</li> <li>7. 電流と磁界間にはたらく力およびローレンツ力を理解し, 説明できる.</li> <li>8. ビオ・サバルの法則の基本を理解し, 円形電流など, 簡単な磁界計算ができる.</li> <li>9. アンペールの法則について理解し, その簡単な説明, 計算ができる.</li> <li>10. ファラデーの法則について理解し, その簡単な説明, 計算ができる.</li> <li>11. 自己インダクタンス, 相互インダクタンスについて理解し, その基本的形状の計算ができる.</li> <li>12. 静磁界エネルギーについて理解し, その簡単な説明, 計算ができる.</li> </ol>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>電磁気学の基礎となる物理法則と物理法則を表す数学を理解し, 静電界, 静磁界および時間的に変動する磁界の問題の計算に必要な専門知識を身に付け, 上記の様々な問題の計算に応用できる.</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」1~12を網羅した問題を2回の間中間試験, 2回の定期試験で出題し, 目標の達成度を評価する. 達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね同じとする. 合計点の60%の得点で, 目標の達成を確認できるレベルの試験を課す.</p>
<p>[注意事項]</p> <p>電磁気学のノートをつくること. 計算の途中で間違えても消しゴムで消さないで残すようにするのがよい.</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>基礎数学(三角関数, 対数関数, 微分, 積分, ベクトルの和・差・内積)</p>	
<p>[レポート等]</p> <p>理解を深めるためレポート提出を求める.</p>	
<p>教科書: 「電磁気学 I 電場と磁場」「電磁気学 II 変動する電磁場」 長岡洋介著(岩波書店)</p> <p>参考書: ファインマン物理学 電磁気学 宮島龍興訳(岩波書店), 電磁気学の考え方 砂川重信著(岩波書店)</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>前期中間・前期末・後期中間・学年末の4回の試験の成績の平均点で評価する. ただし, 未提出のレポートが1つでもある場合は, 評価を0点とする. また, 前期中間試験について60点に達していない者には再試験の機会を与え, 再試験の成績が該当する試験の成績を上回った場合には60点を上限として再試験前の成績を再試験の成績で置き換えるものとする. なお, 前期中間試験の再試験を受ける者は夏休みに補講を受けなければならない.</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>与えられた課題レポートを全て提出し, 学業成績で60点以上を取得すること.</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
電気回路論	平成20年度	伊藤八十四	3	通年	履修単位2	必

[ 授業のねらい ]

受動素子を用いた回路の解析は電気・電子・情報工学を学ぶ上で基礎をなすもので、特に電子回路、情報伝送などの基本となる交流回路理論はインピーダンスやベクトル記号における  $j$  を理解することが大切で、回路素子の物理的性質から詳しく説明し、複素表示法の導入によって数学的体系的に学習し、種々の回路網の解析に応用できることを目指す。

[ 授業の内容 ]

すべての内容は、学習・教育目標 ( B ) < 基礎 > および < 専門 > に対応する。また、JABEE 基準の ( d ) ( 2 ) a) に対応する

前期

直流電圧・電流

第1週 抵抗とオームの法則、抵抗の直列と並列、電圧源と電流源、直流電源

第2週 キルヒホッフの法則、重ね合わせの理、テブナンの定理

第3週 単元演習

回路素子

第4週 受動回路素子、変成器

第5週 受動回路素子の電力とエネルギー

第6週 単元演習

第7週 中間演習

第8週 前期中間試験

交流電圧・電流

第9週 正弦波交流の表現、受動素子の交流特性

第10週 交流電力と実効値、組み合わせ回路の電圧と電流特性

第11週 単元演習

複素数

第12週 複素数と回転ベクトル

第13週 複素数の計算、微積分

第14週 単元演習

第15週 期末演習

第16週 まとめ

後期

インピーダンスとアドミタンス

第1週 電圧・電流の複素表現、インピーダンスとアドミタンス、リアクタンスとサセプタンス

第2週 イミタンスとベクトル図

第3週 単元演習

共振回路

第4週 無損失共振回路とリアクタンス特性、損失を含む共振回路

第5週 共振特性と共振回路の円線図

第6週 単元演習

第7週 中間演習

第8週 後期中間試験

変成器

第9週 二巻線変成器、単巻変成器

第10週 理想変成器

第11週 単元演習

回路の基礎

第12週 閉路方程式、接点方程式

第13週 単元演習

第14週 期末演習

第15週 総合演習

第16週 まとめ

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
電気回路論(つづき)	平成20年度	伊藤八十四	3	通年	履修単位2	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オームの法則, キルヒホッフの法則, 重ね合わせの理, テブナンの定理を理解し, 計算で使うことができる.</li> <li>2. 受動素子の特徴を説明できる.</li> <li>3. 正弦波交流で表現し, 受動素子の交流特性を説明できる.</li> <li>4. 交流電力と実効値の計算ができる.</li> <li>5. 受動素子の組み合わせ回路の電流・電圧特性の計算ができる.</li> <li>6. 電圧・電流の複素表現ができる.</li> <li>7. インピーダンスとアドミタンス, リアクタンスとサセプタンスについて説明できる.</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>8. イミタンスとベクトル図の関係を理解している.</li> <li>9. イミタンスを用いて計算できる.</li> <li>10. 共振回路のリアクタンス特性を理解し, 計算できる.</li> <li>11. 変成器の特性とその等価回路を理解している.</li> <li>12. 変成器を用いた回路について計算できる.</li> <li>13. 閉路方程式, 節点方程式について理解し, 回路の計算に応用できる.</li> </ol>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>電気回路の理論を学ぶために必要な数学の基礎および回路の基本法則を使いこなすことができ, 電気回路の基本的な専門用語の意味や回路要素の性質が理解でき, 回路の電圧, 電流, および回路のインピーダンス, アドミタンスなどを求めることができる</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」1~13を網羅した問題を中間試験および期末試験の4回に出題し, 目標の達成度を評価する。達成度評価における「知識・能力」はおおむね均等とする。評価結果が百分法で60点以上の場合を目標の達成とする。</p>
<p>[注意事項] 今後の電気回路を扱う上で基礎となる事柄ばかりであり, 理論を覚えるのではなく理解しなければならない。さらに, 数多くの問題を解くことによって実践的な応用力を鍛えなければならない。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>三角関数, 指数関数, 行列と行列式, 複素数および微積分を理解しておく必要がある。</p>	
<p>[レポート等] なし</p>	
<p>教科書: 電気学会大学講座「回路理論基礎」柳沢 健著 電気学会(オーム社), 「詳解電気回路演習(上)」大下眞二郎著 共立出版</p> <p>参考書: 「電気回路(1)」鍛冶, 岡田共著(コロナ), 「交流理論」小郷寛著(電気学会)他多数</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>前期中間・前期末・後期中間・学年末の4回の試験の成績の平均点で評価する。ただし, 学年末試験を除く3回の試験のそれぞれについて60点に達していない者には再試験の機会を与え, 再試験の成績が該当する試験の成績を上回った場合には60点を上限として再試験前の成績を再試験の成績で置き換えるものとする</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
電子回路	平成20年度	伊藤八十四	3	1	履修単位1	必

[ 授業のねらい ]

近年著しい発展を続けるエレクトロニクスの中核をなしているのが電子回路である。電子回路は電子素子と電気回路の基礎の上に成り立ち、トランジスタの基本的動作やその等価回路を理解し、アナログ電子回路の基礎的な取り扱い方を修得し、単に理論や定理を空暗記するだけでなく応用能力と問題の解析力を養う。これらにより急速な進歩、革新を遂げる新しい電子素子、回路に対処できるようになることを目指す。3 学年では電子回路の解析に必要な電気回路の基礎的事項と、半導体素子の特性、取り扱いなどを学ぶ

[ 授業の内容 ]

すべての内容は、学習・教育目標 ( B ) < 専門 > および J A B E E 基準 1 ( 1 ) ( d ) ( 1 ) に対応する。

第 1 週 授業の概要 電気回路の基礎

第 2 週 電子回路の特性のあらわし方

第 3 週 半導体の基礎的な物性

第 4 週 p n 接合とダイオード

第 5 週 バイポーラトランジスタの動作と特性

第 6 週 F E T の動作と特性

第 7 週 トランジスタ等価回路

第 8 週 中間試験

第 9 週 トランジスタのバイアス回路

第 10 週 FET のバイアス回路

第 11 週 増幅器の特性を表す諸量

第 12 週 トランジスタ基本増幅回路 ( 1 )

第 13 週 トランジスタ基本増幅回路 ( 2 )

第 14 週 F E T 基本増幅回路

第 15 週 基本増幅回路の縦続接続

第 16 週 まとめ

[ この授業で習得する「知識・能力」 ]

1. 電子回路を学ぶ上に必要な電気回路の基礎、重ねの理、テブナンの定理および電力比、電圧比、電流比の表し方などが簡単に説明できる。
2. 半導体の基礎的な物性が簡単に説明できる。
3. p n 接合とダイオードの動きと、ダイオード特性と等価回路についての基礎事項が簡単に説明できる。

4. トランジスタ・FET の動作原理と基本特性について簡単に説明できる。
5. トランジスタ・FET 回路の接地方式による種類を挙げ、特徴について簡単な説明できる。
6. トランジスタ・FET のバイアス回路が理解でき簡単な計算ができる。
7. トランジスタ・FET の等価回路が説明でき基本的な増幅回路に適用でき、特性計算ができる。

[ この授業の達成目標 ]

基礎的な電子回路を学ぶために必要な数学および回路の基本法則を使いこなすことができ、電子回路の基本的な専門用語の意味や能動素子の動作原理・性質が理解でき、電子回路の専門的知識を身につけ、その等価回路から基本的な特性を求めることができる。

[ 達成目標の評価方法と基準 ]

上記の「知識・能力」1～7を網羅した問題を中間試験および期末試験に出題し、目標の達成度を評価する。達成度評価における「知識・能力」はおおむね均等とする。評価結果が百点法で60点以上の場合を目標の達成とする。

[ 注意事項 ] 電子回路の考え方、解析手法などを理解するために、数多くの演習問題に積極的な取り組むこと。

[ あらかじめ要求される基礎知識の範囲 ] 数学の微分、積分、および電気回路の基礎的事項を理解していること。

[ レポート等 ] なし

教科書：「アナログ電子回路」藤井信生著（昭晃堂）

参考書：「入門電子回路(アナログ編)」家村道雄監修(オーム社)、「基礎電子回路」原田耕介など共著(コロナ社)など多数。

[ 学業成績の評価方法および評価基準 ]

後期中間・学年末の2回の試験の平均点で評価する。ただし、学年末を除く試験において60点を達成できない場合にそれを補うための再試験については60点を上限として評価する。学年末試験においては再試験を行わない。

[ 単位修得要件 ]

学業成績で60点以上を取得すること。



授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
電子情報工学実験	平成20年度	伊藤(八)・伊藤(明) 田添	3	通年	履修単位4	必

[ 授業のねらい ]

講義で習得した電子情報工学の基礎的な内容，電気・電子回路構成素子の基本的な特性の理解とその取り扱いをはじめ，それを用いた基本及び応用回路の製作とその現象，特性を通して，より現実的な実践的な技術の習得を目指す電子系実験と，オブジェクト指向を意識した Windows プログラミング，データベースと SQL の基礎，およびデータ処理アプリケーションについて理解を深める情報系実験を行う。

[ 授業の内容 ]

第1週～30週までの内容は，学習・教育目標（B）〈基礎〉，〈専門〉J A B E E 1（1）（d）（2）b）に対応する。

前期

<Windows プログラミング>

第1週 Windows プログラミング入門

第2週 文字の表示

第3週 グラフィックスの表示

第4週 キーボードやマウスからの入力

第5週 メニュー

第6週 ダイアログボックス

第7週 コントロール

第8週 レポート整理

電気・電子回路基礎

第9週 計測器の取り扱い

第10週 インピーダンスの測定

第11週 共振回路の特性

第12週 整流と平滑化

第13週 FFを用いたカウンタ回路

数値計算基礎

第14週 MATLABを用いた数値計算（1）

第15週 MATLABを用いた数値計算（2）

第16週 レポート整理

後期

電子回路・制御基礎

第1週 PICの概要

第2週 PICの構造

第3週 PICの制御命令

第4週 PICのプログラミング

第5週 PICを利用した制御実験（1）

第6週 PICを利用した制御実験（2）

第7週 PICを利用した制御実験（3）

第8週 レポート整理

<Windows プログラミング>

第9週 ビットマップの表示

第10週 印刷方法

第11週 ツールバーとステータスバー

<データベース>

第12週 データベース基礎

愛13週 SQLでデータを表示する

第14週 SQLでデータを書き込む

第15週 データベース・アプリケーション

第16週 レポート整理

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
電子情報工学実験(つづき)	平成20年度	伊藤(八)・伊藤(明) 田添	3	通年	履修単位4	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>[電子基礎]</p> <p>&lt;電気電子回路基礎&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 電気, 電子回路の特性の測定に必要な計測器の取り扱い</li> <li>2. 電気回路の基本構成素子の特性の理解とその取り扱い</li> <li>3. 電子回路の基本構成要素, ダイオード, トランジスタの取り扱い</li> <li>4. デジタル基礎回路, およびその応用回路, カウンタ回路の動作・現象の理解</li> </ol> <p>&lt;電子回路・制御基礎&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5. 電気・電子と情報との具体的な利用技術の理解と, その応用</li> </ol> <p>&lt;数値計算基礎&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>6. MATLAB を用いた数値及び行列計算, グラフ作成などの基本的操作と活用</li> </ol>	<p>[情報基礎]</p> <p>&lt;Windows プログラミング&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オブジェクト指向についての理解と実践.</li> <li>2. Windows プログラミングについての理解と実践.</li> </ol> <p>&lt;データベース&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. データベースについての基本的な理解.</li> <li>4. SQL についての理解と実践.</li> </ol>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>電気・電子・情報工学に関する専門用語および基本的な実験および演習の手法を理解し, データ整理, 実験に関する検討ができ, さらに得られた結果を論理的にまとめ報告することができる.</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の実験テーマのうち, 履修した「知識・能力」を報告書の内容により評価する. 評価に対する「知識・能力」の[電子基礎]と[情報基礎]の重みは同じである. 満点の60%の得点で目標の達成を確認する.</p>
<p>[注意事項] 対象が電子情報工学分野全般にわたるため, 積極的な取り組みを期待する. 実験テキストを事前に熟読し, 内容を理解の上実験に臨むこと.</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 基礎情報工学, プログラム設計, 電磁気学, 電気回路, および数学, 物理の基本的事項は理解している必要がある.</p>	
<p>[レポート等] テーマごとに報告書を提出する.</p>	
<p>教科書: 電子情報工学実験テキスト(鈴鹿高専電子情報工学科作成), 「作りながら学ぶP I Cマイコン入門」神崎康宏著(C Q出版), 「猫でもわかる Windows プログラミング 第2版」桑井康孝著(ソフトバンク)</p> <p>参考書: 「たのしくできるP I C電子工作」後閑哲也著(東京電機大学出版局), 「MATLAB ハンドブック」小林一行著(秀和システム), その他, 関係する教科の参考書は図書館に多数ある.</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>成績の評価は, テーマごとのレポート点(100点満点)の単純平均によって行う. ただし, 欠席がある場合, 欠課時間数を2で除した数を減点する. また, 未提出レポートがある場合, 評価を55点とする.</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること.</p>	